

★私の意見

隣人の発見

久山 康

〈関西学院理事長・院長〉



昨年突如として日本を襲った石油危機は、晴天の霹靂のように国民の心を驚かせた。敗戦後久しく忘れていた無資源国日本の恐ろしい実体が、一挙に私たちの前にあらわとなったからである。石油エネルギーを基幹として高度成長を遂げた日本の経済は、石油供給国の意志一つで壊滅状態に陥ることが明らかとなった。この状況は昭和初頭の危機的状況とよく似ている。当時植民地をもたず、資源の乏しかった日本、ドイツ、イタリアは、世界のブロック経済の圧迫のなかで、経済的危機に直面した。日本はこの窮状を中国や東南アジアへの武力による進出によって切り抜けようとした。日本は当時米英とともに世界三大強国の一つとして、強大な軍勢力を所有していたからである。しかし武力による隣国への侵略は悲惨な結果に終わった。

戦後日本はこれに懲りて、軍勢力の代りに経済力の増大に力を注いだ。幸いなことに戦後は資源が、いくらでも自由に輸入でき、そのために日本は無資源の国であるという不安を忘れてきた。むしろ日本人の教育水準の高さや勤勉が日本を技術革新の時代の世界的なチャンピオンにした。しかしこの経済的発展も資源国の成長によって障壁にぶつかったのである。

しかもその上に田中首相の東南アジア訪問は、行く先々で学生の激しい反日デモに出会い、日本の経済的進出が別の大きな障壁に直面していることも明らかとなった。軍勢力によって打破できなかった問題は、資本や技術の力によっても打開されないことが明確となってきたのである。私はこういう歴史の実験の結果明らかとなったのは、日本が他国の資源を利用して発展しうするためには、日本人のエゴイズムを捨ててその国のための第一とすると新しいモラルを確立せねばならぬということである。それは「隣人の発見」といってもよい。最も観念的な原理が最も現実的な原理となりつつあるのである。新しい精神教育の振興ということが、民族の将来を決する問題となってきたと思う。



●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に

末積カーポートビル

近代的な
立体駐車場
150台OK



●普通車30分＝¥100

スピーディな駐車 親切的な応待—

■冷暖房完備・TV付の

待ち合い室もあります。

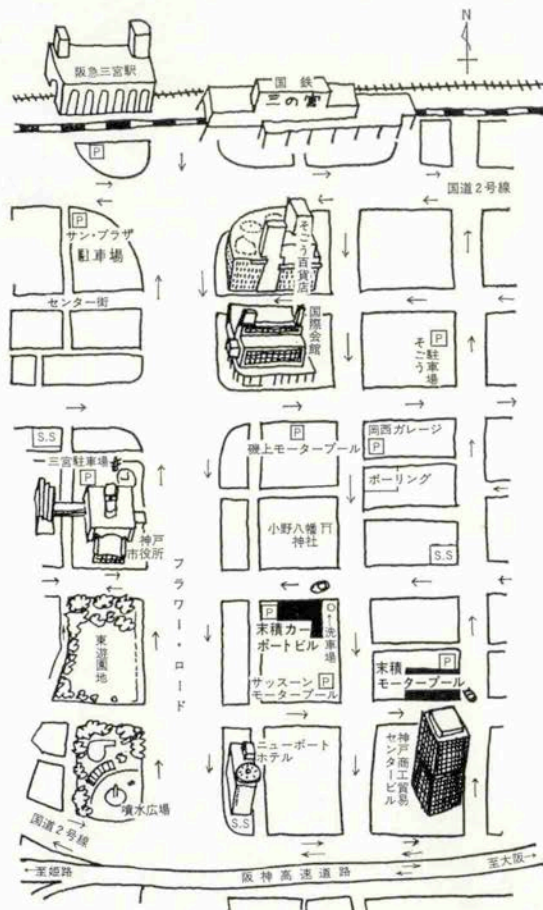
■あさ8時——よる10時(日・祭日営業)



末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9 8 8 7



随想三題

(第3回ブルーメダル賞受賞者による)



〈カット／小西保文〉

ロマンの系譜

小西 保文

〈洋画家〉



最近、ゴーギャンの評伝を読んで、凄まじいばかりの「美」への希求に胸うたれました。彼の一八九七年に描いた絵に、「我々は何処から来たか?」、「我々とは何か?」、「我々は何処へ行くか?」という題名がありますが、おそらくゴーギャンの終生のテーマであったろうと思われるす。

僕は、常々、何故絵描きは身近

かなものよりも、遠いものへ、日本よりも外国にモチーフを求めたがるのか、時にはそれを、意地悪く考えたりします。旅をするのと、エキゾチズムに憧れる心が誰の胸にも、少なからずあるのは当然乍ら、身近なものに比べて、数段優れたものが、そこにあるうとは考えません。しかし、人は旅にさそわれ、未知なものに夢を馳せずにはおれません。そして美しいものは必ず、未知の部分、夢の中に、あそぶ部分をともなっているように思います。

僕は、美のコンポジションを、川端康成の雪国の中に見出します。——国境の長いトンネル——は、現実を越える別世界を、我々に暗示する巧みな設定といわねばなりません。さらに、雨月物語の主人公は、琵琶湖の霧の彼方に夢

幻の世界を垣間見るのです。この場合の霧は、言うまでもなく、現実から夢幻の世界に誘う舞台装置であることは明らかです。僕はこのふたつの物語に、日本人の、もっと言って、大人の誰しもが持っている夢といおうかロマンの典型を感じずにはおれません。雪国は誰かによって書かれねばならなかったでしょうし、琵琶湖の霧の中に、あの雨月物語が出来るべくして出来たという必然さえ感じます。そして、重要なことは、東の間現実を離れていても、いつかは呼びかえされることを知っている心によって始めて、美しいものは、一層美しく、いとおいしいものは、一層いとおしく、悲しいものは、一層悲しいと感じられることです。雪国は野放図に別世界ではありえないのです。そこにチャンとした生活が営まれ、リアリティさえ、ひしひしと感ぜさせます。土器をやく雨月物語の主人公は、あの夢幻の世界から呼びかえされたとき、妻は殺されてこの世にはなかったのです。かけがえのない犠牲をはらって、一夜の、あの妖しい夢幻の世界が、一層我々に迫ってくるのではないのでしょうか。

ゴーギャンは一八九五年、再びタヒチへ渡ります。彼は、その時妻や家族とは決定的ともいえる離別を予儀なくされ、足に生涯愈え

ることのない傷を得て、追われる様にバリを去るのです。パリでの個展も成功とはいえずお金も僅かしか持っていません。もう、そこに夢を結ぶ予地もなかったでしょう。そして、もう呼び返されることさえないのです。事実、一九〇三年彼の地で死ぬのですが、この間数々の傑作を描きます。傷心の中で、その絵は謎ともいえる妖しい美しさで、我々を魅了します。彼の絵こそ、誰かによって描かれねばならなかったのです。

何故なら、行きつくところを知らない現代文明の苦悩の果に、やつと理解するのであろう高度のロマンと夢を、そこに結んでいるように思えるからです。

舞台の

関所

上月 倫子

〈上月倫子バレエ研究所〉



舞台芸術というものは、その瞬間瞬間がやり直しの効かない一回勝負ですから、舞台で踊っている時というのは一種独特の環境にお

かれて束の間に過ぎていく瞬間瞬間に全神経を集中し極度に緊張しているものです。ところが、この舞台に立つ前に、却ってより以上に緊張を覚えるのが「ソデ」という所です。舞台に出てしまえば案外度胸がすわって平気になるものですが、ソデという所はどうもいけません。本番を目の前に、一度っきりの真剣勝負に失敗は許されないとする気持ちから不安にかられ、ただ無事に踊れるようにと祈る気持ち以外には何の雑念もない緊迫した一瞬で、舞台の上の笑顔とはウラハラに、出の間際にソデで待っている時の心地など、とても良いものとは申せません。しかも舞台に立つには必ず通らねばならない「ソデ」は私にとつては箱根の関所のような存在です。

もう十年も前になりますが、私はまだ谷バレエ団で踊っていた頃には東京以外に度々地方公演があり、そのほとんどが白鳥の湖で、当時の私の役どころという決って黒鳥でした。その頃もやはり、公演地の宿で、翌日の舞台のことを考えると早々と緊張してなかなか眠れず、お蒲団に入っても目をパッチリあいて、隣りでスヤスヤと眠っている友の寝顔を羨ましそうに眺めながら踊りのことを考えているうちに、いつの間にかもう朝を迎え、そのまま汽車に揺られ

てその日の公演地に移動ということが度々でした。そうしていざ本番となると舞台のソデで出を前にして、生アタビが出たり、行ったりばかりのトイレにまた行きたくない、そのまま家へ逃げて帰りたい、そんなことさえあります。その頃には、白鳥(オデット)には三二回転のフエツても無いし、きつとこんなに緊張しないので済むだろうに、とよく思ったものです。

そんな時代を超えて、この頃ではソデでもやっと少しは落ち着き、舞台の上で踊ることに悦びを感じ自分を見出すことが出来るようになって来たかと思っていたところに、先頃、その黒鳥のように緊張しないので済むはずのオデットを踊る機会に恵まれました。ところがどうでしょう——いよいよ第二幕の出番が近づき、ソデに行くとい何のことはない、一〇年前とちつとも変わっていません。まるで条件反射のように心臓がドッキン／ドッキン／と音をたてて。初役の時とはとりわけイヤなものなのですが、それにしても「ソデ」というのは未だに最も苦手な所ようです。舞台の度にそんな思いをしながらかうしていつまでも飽きずに踊っているのだらうと思います。結局は「踊ること」が好きなのでしょうね。そしてこの度、好きならばついに止められ

ないまま二〇年余も続けて来た
「踊り」に対して賞を戴くことが
出来、これを励みに今後は「関所」
を笑顔で通って舞台に立ち、もっ
と良い踊りを見て頂けるよう努力
していきたいと、小さな期待に胸
をふくらませている昨今です。

芸の鍛錬 と捨心

吉井 順一

〈能楽師〉



此度の授賞は正直に申しまして
自分自身驚いている次第ですが、
これが神戸能楽会の発展のための
礎となれば私としてもこの上もな
い事だと有難くいただくことにし
ました。

と申しますのは神戸という土地
は京都、奈良に次ぐ謡曲の名所、
旧跡の多い所で、しかも近代的外
国センスのある恵まれた土地であ
り、また明朗な神戸人でありま
す、悲しいかな古典的なものに対
しては余り関心がなさすぎるよう
に思われます。まして能楽という
ことになるに我々の世界で無く、

他の国のことのような観念で見ら
れるように思われますが、そうで
なくて最も身近な日本的芸能であ
ります。先ず日本古来の良さを知
り、外国の長所を吸収されてはと
思うのです。

そこで我々能楽師はこの道を追
究するにつれてつくづく考えさせ
られることしばしばです。なぜな
らば舞台おそろしい所は無いと
思うからです。総合芸術で絶えず
まわりに気をくばらなくてはなら
ないし、また自分勝手なことは出
来ません。すべて約束でなる芸術
であるが故に、自らそこに「和」
と云うものが生まれて来るので
す。「和」を知るには鍛錬が必要
です、芸の鍛錬では教えてもら
うという観念では駄目で、何事も覚
えよう、悟ろう、という気持があ
つての鍛錬でなくてはならないの
です。鍛錬の中には技術が伴うの
ですが、ある先輩の方のお話で「能
は技術が90%を占めていてあと10
%は、能をいかに舞うかというこ
とですが、いざ舞うことを考える
と90%を占める技術がわずか10%
にすぎず、後の考えるのが実は90
%を占めている」ということで
す。なかなか思い通りには参らな
いものです。

相当の経験と、鍛錬、演者の良
識、あらゆるものが積み重ねられ
一つのものに成って舞台に表わさ
れるのです、そこには「野心」が
あつては駄目で「捨心」という言
葉が表現されるのです。見せよう
という意識を捨て、技術を忘れ、
自分を忘れ、無に近い心境こそ、
六百年の伝統を持つ日本で生れ育
った芸術であろうかと思えます。

また社会の文化情勢の変化に伴
って曲自体の内容に対する理念が
移り変わっても心の变りは無いもの
と信じます、これこそ本当の日本
人の心ではないでしょうか。

このようにして良い能が生れる
のも良き環境でなければより良い
能は出来ないのです、神戸の土地
は、前は海、後は山、名所旧跡のあ
る、また国際的にも本場にめぐま
れた所です。幸にして一昨年神戸
にも立派な舞台が出来、市からも
能に対する御理解を戴いておりま
すが、なかなか一般化しないのが
現状です。このような良き環境で
良い能を見て頂き本当の日本芸術
の良さを知って頂きたく、それ
には我々能楽師も芸に打込む様心
がけるべきだと思います。ただ私
自身がこの道一筋で外に興味らし
き趣味の持合せのない人間ですが、
現在迄歩んで来た道が、今回の授
賞に結ばれ、また今後の励みと思
い、尚一層勉強をいたさねばと思
い肝に銘じております。尚この賞
も後輩の人々の目標になればこの
上もなく幸せに思えます。

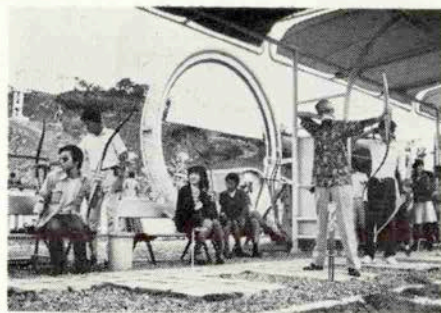
□ある集いその足あと

アイビー

レジャークラブ

大橋 民明

へアイビー レジャークラブ事務局長



恰好もいさしく、アーチェリー部。

昭和48年の春、一億総レジャーとかで、ブームは止まることを知らない勢いであった。街では神戸まつりの大騒ぎ、ちょうどその頃我がクラブが誕生した。

今までのクラブ活動といえは、職場、学校中心のもの、宗教団体などの集まりがほとんど。とかく何んらかの利害、上下の関係がついてまわる。それよりも、ヨーロッパにあると聞くバブ（市民クラ

ブ）のような、庶民が自由に集まって仲間を呼びながらどんどん発展していく、何一つ拘束のない、開放的な、人生を楽しむ人（ホモ・ルーデンス）の集まりを夢みて、若い人数名、少し昔の若い人三名が語らい「自分達で企画して遊ぼうじゃないか」ということになった。それぞれが仲間に呼びかけて三十名位の人が集まり、以後、毎月第三日曜日には、次々とプランが出され、活動しては失敗と成功とをくり返している。

第一回活動から、サイクリング、フォークとダンス、一泊海水浴、琵琶湖バレー、木曽路一泊旅行etc。

会員数も増え、月一回の活動ではものたりないという声が出て、毎週何かやりたい人が集まっていた「部」が生まれた。まず、アーチェリー部が誕生。ミニサイズの練習場と初心者用弓具も整え、きちがいのごとくよく動いている。野球部（アイビークラブ）は球場不足に悩みながらも、今年港都リーグに入り、七連敗という輝かしい連敗記録を更新しながら、おもしろ楽しく頑張っている。バトミントン部は、毎日曜夕方方から西代体育館で七名の部員がラケットをふり、バレーボール部は、一時大企業のチームを相手に試合をやるほど熱が入り、あまりの激しい練

習に脱落者も出てただ今休憩中だが、残った者はひそかに力をたくわえている。その他計画中のものが、卓球、バスケット、落語、ダンス、音楽グループ、柔道など。ところで、今日までの道を歩んできて、我々の悩みも出てきた。一つは、職場も年代も何もかも違う人の集団だけに、リーダーや世話役の負担が大きく、連絡や集会は大変な仕事になるということ。もう一つは、ものすごく熱心な人の集団（部）と、何となく面白そうなどという気持ちでクラブに入った人達との間のギャップである。

最後にクラブの思わぬ効用といえは、今までまったく知らなかった人、また、極く表面的にしか知らなかった人と、利害関係、上下関係を越えて、つき合うことがいかに楽しいか、を知ったことである。あくまで遊びが目的だから、集合解散は自由、それだけに、集まったらそれは本当の、自由意志であるということ。だから、明日解散になるかもしれない。あるいは、会員も増え、もつともつと発展していくかもしれない。ホモ・ルーデンスの集まりを夢みるだけで終わらないようにしたいとは思っている。

■アイビー レジャークラブ事務局

兵庫区塚本通七丁目三十五

喫茶アイビー内 ☎ 第141三三

家事の合い間に
お仕事の合い間に

オリエンタルホテルの料理を研修して下さい

オリエンタルホテル 料理教室

49年春組ただいま募集中

普通科 { 月・金 10:00～12:30
(週一回) { 月・金 14:00～16:30

研究科 { 火・水 10:00～13:00
 { 木 13:30～16:30

くわしいことは教室事務所へ
お問い合わせください。
(ホテル地下1階 ☎331-8111)

株式会社

オリエンタルホテル 神戸市生田区京町25



◀サントレビ奥さまタイムのワンポイントクッキングで活躍中の料理長

□ずいそう

ひるプレ出演

田辺聖子

〈作家〉

え・たかはし もう

〈漫画家〉

私は毎日、昼食のときNHKのニュースに引きつづき、「ひるのプレゼント」を見ている。面白いときはそのままだが、面白くないときはチャンネルを切りかえる。

切りかえるのは私でなく、亭主^{おっちゃん}である。だから、面白い、面白くないかをきめるのも彼である。私はといえば、あてがい扶持で満足する女なんだ。亭主でもお金でも。いわんや、テレビ番組に於ておや、である。

尤も、私は、たべるのにかなり熱心な方でもあるから、昼食を無我夢中で頬ばっていて、テレビは、この際何が映っているにいい、ということもある。

その「ひるプレ」に出て下さい、といってきた。ひるプレはせいぜい三十分なので、往復の時間を入れても知れていると思い、「いいですよ」といったのが運のつき、これが実に大変な大事業なの

だ。

第一、何をやるかをきめるのが大変。その週は、一週間ずつとNHK大阪の制作で大阪の作家が登場することになっている。作家なんて、書いたものを読むもので、テレビなんぞで見るものもちがう。それを見られるものに仕組もうというのだからNHKのディレクターたちも汗を絞っていた。彼らはいった。「何か、かねてからの望みだったものはありませんか、テレビで踊ってみたいとか、こういう扮装してみたいとか、こんな人とか、こうことをやりたい、とか……」

「べつに」

私はキョトン、として答えた。彼らはさらに考

え、「いつも何をしていますか、仕事のほかは」

「飲んで寝てます」

われながら可愛いげない答えたが、事実だから



仕方ない。ディレクターは、うーむと鉛筆を投じ、腕組みしてしばし瞑想にふけり、

「飲んだらスグ寝ますか、ボタンキュー？」

「いえ、ボタンと倒れるまでの間、歌をうたいます」

彼らの眼はドラキュラの如く、らんらんと輝いた。彼らは叫んでテーブルを叩いた。

「よろし、それでいきましょう。飲み仲間は誰々ですか？」

かくて、かわいそうにも気の毒にも、元永定正画伯と高橋孟画伯が、ドラキュラの犠牲として引っぱり出されたのである。

そうして私はおどろいたのだが、朝の九時に迎える車が来て、十時にはスタジオに入る。すでに家へ帰ったら午後二時、ひるプレ三十分といつてもたいへんな時間を食うもので、この日ゲストに来て頂いた元永サンや孟サン、山本素石氏（ツチノコ探険隊長）桂小文枝師匠たちにも、えらい目にあわせたわけで申しわけない。実にテレビというものは時間を食う。

そうしてリハーサルが延々とつづき、三回予行演習をさせられる。お酒を飲む話のときに元永サンと孟サンが席に加わって下さって、孟サンのかいたマンガが大うつしとなり、私の酔態をテレビでオール日本にひろめようという、悪どい趣向である。

ところでリハーサルの合間に、ディレクターは私のそばに近より、もう何べんめかの懇願をした。

「やっぱり、歌、うとうてもらえませんか。ちょっとでも、あきませんか。『明治一代女』と『隅

田川』、いつも歌いはるそうですが」「ダメです」

と私は断固、拒否した。私は内心、もし歌ったら、野坂昭如氏に続く「歌う作家」第二号としてLP盤を出せるのではないかと自負しているのだが、あんまりそれでは人心を攪乱すると思うので、控えたのだ。

ところが、孟サンと司会のアナウンサーはひそかに打ち合せをして、本番で孟サンは歌い出したのである。この人ふしぎな人で、お酒飲まなくても、ツヤのある美声、たちまち気分が出てしまつて、私はツイ、「隅田川」のセリフの所をしゃべってしまった。あ、と思つてももうおそい。私の舌は孟サンの歌のあとはオートマティックにうごく仕掛けになつてゐるのだ。（やった、やった）と司会者やディレクターはうれしそうにしていた。

とうとう私はひっかかっちゃつたのである。それは元永サンのニコニコした雰囲気や孟サンのマンガのせいである。（ちなみにいうと、孟サンがNHKに提出したくだんのマンガをテレビで見て、東京の友人連は驚倒していた。あんまりうまいので、今まで気やすく孟サン孟サン、といつていたのを反省したそうだ。これからは孟先生と呼びますと恐縮していた）家へ帰つてすぐ、孟サンから電話があつた。

「おっちゃん、テレビ見たか、どないいうた？」

おっちゃんはたまたまそのときトイレに入っていたが、チャンネルを切りかえなかつたと大声でいった。いつものようにニュースのあとどこかへ廻そうと手をのばしたが、ついそのまま見たそうである。

坂道

—わが小説の神戸—

三枝和子

作家

え・石阪 春生

〔洋面家〕

私は余程神戸という街が好きらしい。好きらしい、とひとごとのように言うのは、最近まで自覚がなかったからである。

二、三年前、ある編集者から、「三枝さんの小説にはよく神戸が出て来ますね。好きなんですか」と質問された。私は作品のなかで「神戸」と、固有名詞を使ったことはほとんどない。それでいて読んだ人にはつきりそれと分るのは、神戸がやはり強い個性のある都市だからだろう。

以前『珈琲館木曜社』という作品を構想しているときのことだった。摩耶埠頭に自殺した詩人の死体があるところから書き出そうと思っていた。



しかしなかなか雰囲気がいまらなかった。国際ホテルに二日ばかり泊って、摩耶埠頭へ出掛けていてはメモを取ったりしたが、遂にメモはメモに過ぎなくて小説の言葉を見つけることはできなかった。

仕方なくその作品をあきらめて半年くらい経たある日、別の用事で人に会う約束があり、夜までの時間が二、三時間空いたので思い立って北野町の坂道を散歩することにした。春先の風の冷たい日だった。

歩きながら、どういうきっかけからか、私は次第に自分が現実の神戸の街ではなく、小説のなかの神戸の街にいるような気分になって来た。長いあいだ棚あげになっていた作品の雰囲気は不意に

かたまつて来たのである。作品の雰囲気がかたまつて来ると作品の構想も動きはじめる。私は坂道の途中で立ち停まり、自分の内部に、いま湧いたばかりの想念をしつかりと確認しようとした。

これで書ける、と私は思った。会社では「詩人」と侮蔑的に綽名されている「彼」が、無為の夕暮に、ゆつくりと北野町の坂道を上つていく姿を、そのとき私は見たのである。

道はそこから急に傾斜が強くなった。石畳は御影石でなく、砂利をコンクリートで固めた八十厘と四十厘くらいの比較的大きな長方形だ。畳と畳のあいだの二厘くらいの隙間には、驚くほど鮮やかな緑の草が芽ぶいていた。四月のはじめ、寒い日で、桜の蕾は、ふくらみをふいに停めてしまったようで、梢がぼうつと薄あかく煙っているだけで、花はまだ一つも咲いていなかった。

……

彼は立ち停まった。坂道はうねうねと曲っているの、傾斜に従つて建てられた住宅が、行手を塞いでいるように見える。彼は、胸の前に迫つて来る建物の壁を押しわけて、登り坂を歩いていく。建物がこちらに向つて降つて来るような感覚。

K市は、いま、静かに傾いている。

陽が沈むには、まだ幾らかの時間がある。港には光の断片が散在し、造船所のクレーンが逆光に濃い骨格を際立たせている。微かに息づいているK市……。彼は、自分の魂がK市のベルスペクティーフに従つて、ゆつくりと解き放た

れていくのを感じている。物悲しい自由。しかも、非常に透明な至福の瞬間。

こういうときには展望のよく利くスカイラウンジでも立ち寄つて、まだ陽が沈まないから、甘い柔らかな酒……チンザノロックでも二、三杯嗜むといいのだ。

彼は歩き出す。しかしチンザノロックを飲みには行かない。緩慢に、もと来た道を引き返しはじめる。折り重なつて足許にまつわりついて来る建物のなかへ、陥ちこむような感覚に捉われながら坂道を下つていく。本当に彼は、何もすることがないのだ。

それから私の小説の登場人物である「彼」は、坂道を下り、家へ帰りたいくない、などと思ひながら街をさ迷い、心ならずも新入社員歓迎パーティの喧噪のなかへまぎれ入つていくのだが、当の作者の私は、その夕暮を優雅に過した。「レストラン北野クラブ」の、よく拭き磨かれた長いカウンターの前に坐つて「彼」の飲まなかつたチンザノロックのグラスを傾けたのである。

眼をあげれば、総硝子張りの視野のなかに、神戸の港が音もなく存在していた。酒の壘が硝子窓の下、眼の高さよりも低い場所に、ラベルをこちら向けにびっしり並べられているのが印象的であった。もみあげの長い三十前のバーテンさんが、夜会用なのか、大きなガラスの器に酒を調合していた。私はぼんやりと、陽の沈むまでその場所に居た。小説の時間と、現実の時間が、もつれあい、まじりあいながら、そのときの私の意識のなかを流れていた。

坂道のつぶやち

小泉 八重子

〈俳人〉

え・石阪 春生

〈洋画家〉

布引の滝は想像通りしんと沈んだ静寂の中にあった。都心から思いもかけぬ近さで、忽然と滝音の世界へ入れるということは、他に例を見ないと言われている通り、新神戸駅を裏へ一步抜ければもう滝への登り口であった。

たおやかな雌滝、水量があったらと惜しまれる白誓の雄滝、半円型に落ちる鼓滝とそれらをつなぐ石段や遊歩道、こんな風致に恵まれながらさびれた感じが否めないのは、やはり神戸の繁栄からとり残されているのであろうか。

人は遠く遙かなものに憧れる。前面に海、後に連山、と美しい自然と風物に恵まれている神戸は美への感受性が優れ、山水への美感覚が研かれると共に、それに対して贅沢にもなってくるだろうと思う。

「犬の糞をそのままにしないで下さい」という



山道の立て札を見て、この優雅な滝を取り巻く山道を、朝夕の犬の散歩道にできる神戸の贅沢さと思った。

未婚者と灯の暮れ方の滝纏う

赤尾兜子

一条の光のように流れ続ける滝を見ながら、この句を思い出していた。未婚者という薄暮、灯がうつる滝、たゆたうようなロマンと情感があるが、その情感へのセーブも感じられる。滝を「纏う」というのだからこの滝は、轟々と落下する瀑布ではなく、この布引のようにひそやかにまめいた滝がふさわしいだろう。展望台まで登って行くと、意外にも四、五人の男性グループが占領していて「ねえちゃん、いらっしやい……」と言われ展望を諦めて早々に山を下りる。

「六申の山なみは裳裾をひいて海にくずれこんでいる。神戸の町はそのなだらかなスカートの上ののっかっているようで、地形的にも、なんとなくなまめいたところがある。だがそのなまめかしさにしてもいたって開放的なのだ」

かつて陳舜臣氏は著書『神戸というまち』のなかで、そのユニークな神戸観をこんなふうに綴っておられるが、北野町から山本通りとスカートの一つの襷の中を歩きながら、写真でしか知らぬ異人館を、現在の瀟洒なマンションの建物とだぶらせておいて見る。異人館地帯と言われたこの町並は、神戸の歩みのまぎれもない一つの顔の持主なのだ。

日本最初のモスクワと称された回教寺院の尖塔とドームが、目の下に謎めいて招いている。ゆるやかな坂道を歩いていると後からタクシーが徐行してきて「乗りませんか」との合図のクラクションを短く鳴らして通り過ぎた。

〈生田の森〉を見てから市役所南、新装の東遊園地に入る。車では通るが入るのは初めてである。

冬木の人肌「東公園」の彫り深く 八重子

ふりそぐ陽の下で散策の人々の顔は明るく、冬の樹木にふと人肌のぬくもりがあるように思った。ここまで来れば港のざわめきが聞えるようにで「港が呼んでいる」とそわそわする。埠頭に立つと潮を含んだ強い風が髪を乱す。遠大なもの、巨大なものの前に立った時、殆んどの人はなべて同じような感慨を抱くと言われるが、その「普遍的な感動」を私も同じように味わう。言いかえれば

ごく平凡な人間ということ、こんな時すぐ無条件に感動する自分に呆れるが、やはり見知らぬ国々へ続く波々と、幻影のように視界から消えゆく白い船には弱い。

髪染めてタンカーは過ぐ桃の花 赤尾兜子

明るい海とタンカー。「髪染めて」がエキゾチックな情感を誘い、つぶやくように書かれた「桃の花」の匂やかな色彩を与える。具象的に、心象的に春の神戸を感じさせる句と思う。港にはもう一面の重油くさい男っぽい仕事場としての顔があつて、確かに摩耶埠頭には、女が用もなくうろつくことを拒む荒々しさが感じられた。私にはポートタワーの展望台から望遠鏡で、マストや船室を拡大して眺める位が似合っていそうだ。

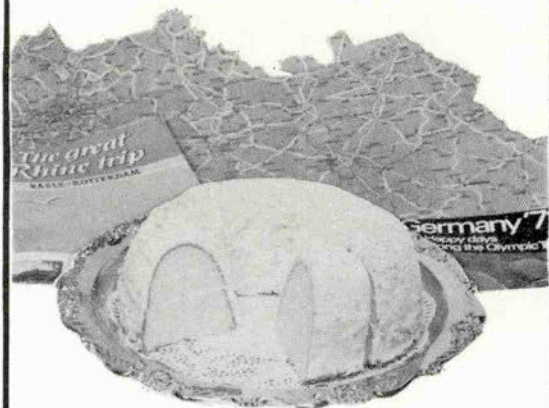
塔眼鏡軽き目まいの罌粟の芯 八重子

ポートアイランドのことは聞いていたが、SF映画のような円や四角のものがもう沢山建っていて玩具のようなトラックが並ぶように走っている。私も赤い神戸大橋を渡りたいな、と子供のように思った。

陽がやや衰えてきた。一部分だけ駈け足で覗いた神戸……神戸に夜が訪れる。

さむき顔もち逆光神戸歩きゆく 八重子

フランクフルトの
白い冠
上品なバターケーキです。



フランクフルター克蘭ツ

ドイツ菓子
Fachreim's
ユ-ハイム

このマークの店でお買求め下さい

本店 三宮生田神社前 TEL(331)1694
三宮店 三宮大丸旧市電筋 TEL(331)2101
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL(391)3539
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL(251)0139

美術 古美術
骨董 書画



鎧 素掛 藏当世具足 (江戸末期) 約1,000,000円

鑑定 買入
研 白鞘 拵 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 古美術
劍 美術
骨 美術
元所美術

〒650

TEL078-351-0081

バランスあるファッションを

山田 夏子 〈服飾評論家・「ユニヴェルシテ・ド・ラ・モード」紙主宰〉

リラ・ルリーブル 〈「ユニヴェルシテ・ド・ラ・モード」紙パリ支局員〉

福富 芳美 〈神戸ドレスメーカー女学院々長〉

★季節の色を大切に

リラ 神戸はママの懐しい故郷なのね。

山田 一つのとときに諏訪山のあたりに住んでいましたね。その頃の写真をみるとハイカラな帽子を被っていたね。神戸って、昔から、すつごく、ハイカラな町だったのね。

福富 神戸には幾つ位までいらっしやったの。

山田 数え年で七つか八つね。私は町といえば北には山が、南には海がと考えてたでしょう。だから東京へ行く

と途方にくれちゃってね。どっちが南だろうと。(笑)

神戸に来ると色んな想い出が落ちていくのね。楽しいわ。父につれられてよく居留地へ行ったんです。この間も、今のオールスタイルのあたりを歩いていたら、昔のままのたたずまいでね。懐しかったわ。私の想い出のなかにはズツと神戸というものがあるのね。でも、元町は変わったわねえ。私には昔のイメージがあるのね……。

二十代は主人とズツとフランス。戦争中はサイゴンにいました。戦争が終って日本へ帰って来て初めて銀座へ行ったら、女の人

の服装を見てビックリしたの。和服

だったのが、みんな洋服になっていてたでしょう。しかも、その洋服が何ともいえないものでね……。

福富 いつ帰ってらしたの。

山田 昭和二十一年頃ね。銀座へ見に行ったのは二十三年ね。それはひどかったの。みんな夜のような服装をしているの。そこで私は日本の女の人たちに服装のことを教えないといけないと痛感し、今の仕事を始めたんです。

リラ 私は八つまでフランスだったんですよ。

福富 パリって何度行っても嫌にならないわね。行くたびに違ったところがあるのよね。幾ら見ても飽きないわ。

本当の素朴さと、本当の人間らしさ——それが魅力なのよ。一見汚れたような感じのなかにいいものがあるの。

昭和二十年代にアメリカから行ったんですけど、そのときは色をみたいと思ってたね。アメリカ人は、赤とか、日本にない色を着ていたのね。その土地その土地の色があるのよ。パリへ入ったとき、色がアメリカとは全然違って、ステキでね。それも田舎の色なのに。ああ、色が違うなあ、とそのときつくづく感じたわ。

山田 その色のお話はステキだわ。

福富 フランスには流行色がないと思うのよ。季節季節の色がそのまま流行色になっているのね。

山田 私の子供の頃は日本にも季節の色があったわね。

着物にも季節の色と柄があつたね。だから、季節外れの着物は着れないのよ。今はそうじゃないわね。

福富 着物が洋服化してしまつて……。でも、着物が洋服化したというのはコンプレックスなんだわ。着物は着



山田 夏子さん

物のままチャンとおいでおくべきよ。

山田 おいでおくべきよね。

福富 インドの人がサリーを昔のままに着ているようにね。洋服は洋服として別のものとしておいでおくべきだわ。着物を洋服化するなんて……。

山田 おかしいのよ。着物の模様もごっちゃになってしまってるし。

★TOPをわきまえたファッションを

リラ おとし、十年振りに日本へ帰って来たけれど、人間が何と多いんだろうと一番に感じてね。パリでは、



リラ・ルリーブルさん

朝、バスターミナルがどんなにこんでいても十五人位並んでるのがせいぜいだけれど、東京なんか三十人はズーッと並んでいるのね。

福富 でも、神戸は空いているわよ。

山田 でも、フランスはこれ位よ。これ位でいいわ。今日も東京から神戸に来て、静かない町だなぁって思ってたわ。この雰囲気崩さないように、このままおいでもらいたいわね。

福富 でも、神戸が発展するためには人がバーツというような町にならないとね……。

リラ だけど、多勢人がいても、いいものができなかったら何にもならないでしょう。

山田 あなたからパリの人がどうしていいものをつくっているのか少しお話して頂戴よ。

リラ 人間があまりもまらないから大きな気持ちで仕事ができるのじゃないですか。コセコセしてないですね。

福富 日本ではあんまり人間が多いから、誰か他の人がやって成功したものを安易に踏襲して自分が沈まないようにしようという風潮があるのよ。

山田 そうね。人間が少ない方がいいものができるような気がするわね。

リラ それに日本人は何であれ物事をキッチリと決めてからなくちゃ済まないのね。理屈っぽいし、融通性がない。キチッと線を引いて、こうだ、と決まないと気に入らない。立体裁断にしても同じなのよ。フランスだと、こういうときには、こうしますが、こうもできますよと教えるのね。ところが、日本では、こうしなくちゃいけないのですよ。ここを、この角度でこう切つて……と教えないと納得しない。

福富 私はフランス式で教えられたんですが、今の日本の立体裁断はアメリカから来ているのよ。既製の服の型紙を作るにはあれでいいでしょうけどね。フランスでは、絵を習うときに先生が絵を描かせて、いいとか悪いとかいうけれど、絵の描き方は教えないのね。一見頼りな



福 富 芳 美 さん

いようにみえるけれど、このやり方だと、その人は伸びるのよね。だから、フランスでは本当に才能のある人が育つからね。アメリカでは、こういうときには、こういう具合に描くと教えるの。まるで製図。日本は何でもアメリカのシステムを取り入れているからダメなのねえ。

リラ 一つの洋服を彫刻のようにつくり上げて行くのがフランスのやり方なのよ。

福富 そうそう。だからうちではサシは真ッ直ぐに線を引く以外には使うなといってるのよ。製図から覚えたらダメなのよ。

リラ 日本人はとにかく道理の通ったものでないと気が済まないのね。小学校での教え方にしても日本は初期につめすぎるのよ。教えずぎよ。だから萎縮しちゃって伸びない。フランスは、根本的な基礎だけを教えるだけなのね。基本的なものを頭に入れるだけなので片端にはならないわけね。あとは自分で伸びるの。

福富 服装にしても私がアメリカにいた頃は、今のようにはジーパンやパンタロンでは学校へ行けなかったのよ。あれは仕事着なのね。普通の家庭の子供はドレスアップしないと学校へ行けないのよ。ところが日本では、ジーパンやパンツをはいて遊んでいる子供しか見てないから、ああ、アメリカは自由で何でもいいんだ、ということとで勝手に解釈しているのね。

でも、最近、ある服飾関係の短大が、これからはジ―

パンやパンタロンで登校するのはやめましょうと申し合わせたらしいんです。ファッションを勉強する者が自ら正しいTPOを守りましょうというわけね。

リラ それが常識なのよ。そういうことをフランス人は小さい頃から知っているのね。

山田 場所とか時間とかによって着てはいけないものが決っているのね。

リラ だから、場違いな服装がないのでみていても調和がとれて綺麗なんですわ。

山田 どんなに流行が変わっても基本的なものは全然変わらないうんですよ。

福富 日本人は右だといえバ―ッと右、左だといえバ―ッと左でしょう。ファッションにしても、既製服がいっぱい出てきたら、自分では縫わなくていいのよ、と何となく洋裁学校に誰も来ないような雰囲気になっちゃう。(笑) たとえば、服飾の仕事をしている人たちですら、パリへ行ってもオートクチュールを全然見に行かないで、既製服の店ばかり見ているのね。一、二年前まではどんなに苦勞してもオートクチュールを見たいといっていたのにね。あれはデザインの源泉なのに。どうしてこう軽薄なんでしょうね。

リラ 流行の上っ面ばかりを覚えて日本でやるわけね。

山田 たとえば、パリのラテン区域で着るようなエスカルゴの服があるでしょう。これを夏のまつりなんかに着て、海辺を裸足で駆けるととても綺麗なのね。ところがこれをそのまま町中で着たりするのね。

福富 そうなのよ。それを着る雰囲気なんか考えないで流行だとなんでもかんでも人れちゃうのね。

山田 だから私は新聞をつくったり、ワアワアいったりしてやってるのよ。(笑) でも、どんなにいったってみんな分らないのよね。

★バランスのとれた神戸ファッションを目指そう

福富 今、神戸はファッション都市ということで、町も

綺麗になり、ファッション性のある会社も沢山できて、神戸はファッション性が高い高いといわれているのですが、このままで伸びて行っているいいものかどうか、ということでお話を伺いたいのですが。

山田 パリのように神戸へ人を呼ぶことを考えないといけないわ。神戸の人だけに売っても意味がないんじゃない。フランスは楽しい雰囲気をもっているから外国人がみんな来て、物を買おうでしょう。

福富 でも、雰囲気だけで、何も買うものがなかったら。

山田 だから、それをこれからつくるんでしょ。まず、人を呼ぶだけの雰囲気をつくり上げなくちゃいけない。

福富 私は売るものをつくらなくちゃいけないと……。

山田 勿論、売るものをつくらなくちゃいけない。でもつくっても人が来なけりやしょうがないでしょう。

福富 だから神戸独自のいい品物をつくらなくっちゃいけないのよ。同じワンピースでも神戸のものは着やすい。そういうものを沢山つくっていかないとダメなのよ。

山田 確かに、そうね。

福富 パリが何故あんなに魅力があるかという、それはカッティングとか作りの問題ですね。たとえば、一本のベルトをつくるにしてもコツコツとつくる。そんな職人は日本にはいないのね。

山田 最近フランスでもいなくなりつつありますね。

福富 そういう稀少価値のあるもの、神戸のものはいねえと人にいわれ、分つてもらえるものをつくって行きたいのよ。

リラ そらそうですわ。数は少なくてもいいから、素晴らしいものをつくったらいいのよね。

山田 それには技術をもっと磨かなくちゃいけない。

リラ パリでは既製服でも縫製の面から時間をどれだけ短縮し、どういうやり方で仕上げようかということを常に研究してるわね。

福富 だから、それが神戸にも必要なんじゃないかといいたいわけよ。

リラ デザイン画を描く人はただ夢を描くだけで、それを仕上げるのは立体裁断をやる人たちなのね。

山田 それが日本では正しく認識されてないのね。

福富 日本ではデザイナーが最高で、縫うのは下っ端だという考えがあるわけよ。

山田 そうなのよね。でも、それは神戸だけじゃなく、東京も同じことよ。

福富 勿論、そうですけど、だけど、神戸は東京や大阪と同じではダメなのよ。

リラ パリにはそういう仕上げに優れた人がいるから素晴らしいものができるのよね。たとえば、イタリアの生地やモードはいいとよく聞くんですが、実は、フランスまでデザインを買いに来るわけね。加工はやすくつくのでイタリアでやるのです。だから、イタリアモードと俗にいわれているものはフランスから来たもののね。

東京にもフランスの会社からパターンを買って来て、それを参考にしてうちはやりますと誇らしげにしている会社がありますね。そこで私はいったんですよ。フランスの会社の人は全体のバランスを考えてつくっているのだから、袖と襟だけを部分的に使っただけじゃ変なものができますよ。全体をそのままにして使っただけじゃないと何にもならないでしょう、とね。部分だけを参考にするのはおかしいのよね。

福富 絵だけ描いてこれがうちのデザインですといってみたり、また、それでいいと思っている消費者がいるけれども、そういう消費者について行っていないのです。むしろ、消費者の先を行かないとダメなんですよ。

リラ 洋服にはバランスがあるでしょう。

山田 それが一番大切なのよ。

リラ ミニになろうがロングになろうがみんな自分の体形のことを考えて、着るべきかどうかを決め、モードも第一にバランスをよくすることを考えるべきなんですよ。

山田 神戸もその方向を目指して欲しいですね。

経済ポケット ジャーナル

★神戸港の貨物取扱量 三年連続日本一

神戸市港湾局はこのほど昨年一年間の神戸港入港船舶と貨物取扱量をまとめたが、貨物量は前年に引き続いて一億トンを超え三年連続して日本一となった。

入港船舶は、外航船一万百九十七隻で内航船十三万二千五百五十四隻。フルコンテナ船は千六十九隻で六七・六%の大幅増。

貨物は輸出貨物が千五百四十九万トンを、金属機械工業品、雑工業品、化学工業品などが占めている。輸入貨物は二千五十三万トンを、綿花穀物、冷凍肉の輸入ラッシュが目立つほか、軽工業品、雑工業品、金属機械工業品が伸びている。航路別では北米、欧州航路が減り、韓国、中南米、ナホトカ航路が伸びている。内貿と外貿を合わせて昨年一年間に神戸港で取り扱った貨物量は一億四千二百三十一万トンを四十六、七年に続いて三年

連続日本一となった。

コンテナ貨物は輸出入を合わせて前年の約二倍に当たる千十一万六千四百四十九トンを記録したが、この取扱量は横浜港の二倍以上で、東京・横浜・大阪三港の取扱総計にほぼ匹敵する。

★丸山コミュニティ・センターが完成

「住民の住民による、住民のためのセンター」を目標とした「丸山コミュニティ・センター」が二月二十三日オープンした。丸山地区は四十六年、自治省がモデルコミュニティ地区の推薦を都道府県に指示した際第一回モデル地区指定に選



丸山コミュニティ・センター

ばれたほど住民による地域づくりが盛んなどころ。

今度のセンターの建設にも全国初のコミュニティボンド（地域住民債）を発行し、住民が建設費の一部を引き受けて完成にこぎつけた。センターは鉄筋二階建てで地域団体、趣味のグループの利用や住民が気軽に集って話し合える交流の場に育てていきたいと、地元の人達は大きな期待をよせている。

神戸市長田区西丸山町一丁目65 TEL・六四二二三四四七

★グアム航路に本格的コンテナ船「ほなべ丸」就航
神戸を基点として日本・グアム島・台湾を結ぶ日本初の定期貨物船、大和海運のコンテナ車両専用運搬船「ほなべ丸」（七七一六トン）が就航した。

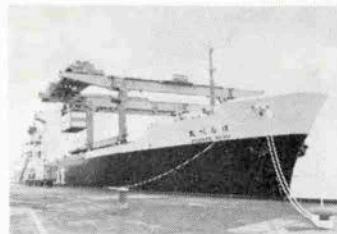
同社ではこれまでセミコンテナ船二隻を神戸ーグアム、神戸ー台湾航路に配船し、一般コンテナと車両を運んできたが、経済的な効率をねらってコンテナ車両専用船「ほなべ丸」を新造三カ所を直結する新航路に投入することになった。同船は二十フィート型コンテナ二百三十二個、乗用車四百二十台を同時に収容できる。

★KOBEOフィスレディ★



森本 康子さん（22歳）
株式会社三愛三宮店総務課

三愛のなかで何をやっているかといいますと総務課で、人事や労務に関する仕事をやっているのです。給料の計算や新人教育やその他諸々、事務所の掃除やら、洗たく（雑巾の）やら、〇〇やら。勤め始めて今年で三年目。田中千代服装学園で二年間、縫製を勉強したりしていたのですが、今は毎日机に向かって黙々と（煙草をモクモク？）と仕事をやっているということなんです。



摩耶埠頭に停泊中のほなべ丸

高分子凝集剤

諸岡 博熊

〈阪神外貿埠頭公園工務部長〉

一般に港湾の埋立地造成にはポンプ式浚渫船を使用する。すなわちポンプで海底の土砂を吸い込み、送砂管を通じて土砂を海水で圧送、埋立地で吹き出して土砂を放出し土地を造成する。余水は埋立区域外に放流する。送砂管の吹き出し口付近では、粗い砂利、砂が堆積し、泥質は余水に含まれてほとんど地域外に流出する。このため、埋立造成地域外の周辺の海を濁水で汚染して公害を起こしている。神戸港では、山土を底開式のバージで埋め立てしているため、この問題は発生していない。

このような厄介物扱いされるいわゆる泥というものは、自然の沖積作用で海底にたまったものである。ところが水中の懸濁物質である泥は、凝集沈降する性質をもっている。これは電解質の作用によって生じることが知られていた。

したがって人為的に凝集剤を懸濁物質に添加してやれば、自然の凝集現象をより早く促進することができるとはいかないかの考えで凝集剤の開発が研究進められていた。

凝集剤一覧

分 類	イオン質	物 質 名
低重合度 (MW 約 1,000- 数万)	アニオン	アルギン酸ナトリウム、CMC—ナトリウム塩等。
	カチオン	水溶性アニリン樹脂硫酸塩、ポリチオ尿素硫酸塩、水溶性カチオン化ミノ樹脂等。
	ノニオン	デキスト、ゼラチン、水溶性尿素樹脂等。
高重合度 (MW 約 数十万- 数百万)	アニオン	ポリアクリル酸ナトリウム、ポリアクリルアミド部分加水分解物等。
	カチオン	ポリビニルピリジン硫酸塩、ポリエチレンジアミン、ポリアクリルアミドカチオン変性物等。
	ノニオン	ポリアクリルアミド、ポリエチレンオキシド、ポリプロピレンオキシド等。

●に荷電したポリマー
○に荷電したポリマー
ノニオン系——電荷を帯びていない中性のポリマー

ここ数年来脚光を浴びてきた凝集剤に、ポリアクリルアミド系高分子物質^①がある。

この高分子凝集剤をポンプ式浚渫工事の際、吹き出し口で余水に添加してやると、凝集が促進されて、濁水や泥水がきれいに澄んでくる。その上、海底に沈積している有機的浮遊汚泥や有害重金属を凝集させる作用をもつため、これらを海底に凝集させておいて、後に掘り出して地域外の処分地にもっていくことが可能となってきた。

懸濁した微細粒子は水中で電気的に荷電しているから、粒子は互いに反撥する性質をもち凝集しない。これを電氣的に中和させると結合することとなる。中和のためには、反対電荷の電解質を添加すればよい。ところが、高分子凝集剤は中和作用するばかりでなく、

さらに、懸濁粒子中の粗大な分散粒子相互間を架橋し、吸着させる作用を発生するので、凝集が一段と促進されることとなる。

凝集剤は、その有するイオン性によって分類され、さらに無機系か有機系に分けられ表のとおりである。そのうちポリアクリルアミド系凝集剤が製造が容易で価格も安定し、取扱いも簡単のため最も広範囲に使用されはじめている。

港湾工事で公害の発生を防止し環境を保全するために凝集剤が有効であることが注目されだしている。

凝集剤を利用した工法としては二重構造工法（埋立地域を区画し初めての区画でポンプから土砂を放する。余水はつぎの区画に流す。初めての区画には砂が堆積する。つぎの区画で余水が流入するところへ凝集剤を添加するとその区画に泥がたまる。つぎに、初めての区画にあった送砂管の吹き口をつぎの区画に移して同様にすると泥の上に砂が堆積する）。サンドイッチ工法（初めての区画とつぎの区画を交互に繰り返して吹き出し口を移動すると、砂質、泥質、砂質といったサンドイッチ型に埋立地が造成されていく）。その他、濁水流出防止工法、管内直接注入工法、水中噴射工法、シールド工法などがある。

くらしと貯蓄にひとくふう

TOMORROW!

たしかな明日のために

住友信託銀行

もとまち 大丸西向い
■(078)321-1131

望月まゆ

優

大あ
し
の
ん
だ
い



● 4月から利息に税金がかからない優の
限度額が三〇〇万円になりました。
「住友の貸付信託」で優ワクを活用すれ
ば、たとえば、二〇万円が五年で三〇万
三、一〇〇円に。なんと一〇・三一%も
の金利回りになります。
そのうえ、一年以上たてば期間に応じ
た換金もできるのです。
(5年もの・現行配当率・複利式)
せっかくの優と「住友の貸付信託」のも
つ一割以上の金利回りを、なんとか暮
しに生かしたいものです。